



赤穂市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成30年1月 ■ 人口：48,177人 ■ 面積：127km²
■ 担当課：赤穂市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



市内に所在する歴史文化遺産1,148件を明らかにするとともに、市内9地区それぞれの、特色ある歴史文化のストーリーを計26件、地区を越えた歴史文化のストーリーを10件抽出した。これらをまとめ上げる形で、赤穂市を代表する歴史文化のストーリーを6件設定した。最後に、これらの歴史文化を保護・活用するための基本的考え方とあるべき姿を定め、それを実現するためのしくみづくりを提示した。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

川・海・まちなみ、塩づくり、赤穂事件と忠臣蔵、
まつり、遺跡

課題

- ・ 少子高齢化と人口減少
- ・ 過疎化
- ・ 世代間交流の減少
- ・ 身近な歴史文化遺産の消滅

保存活用方針

- ・ 歴史文化を守り伝えるための「あるべき姿」を実現
- ・ 「しくみづくり」を推進

保存活用のための取り組み

組織体制の充実

市内の地区ごとに、計24名の「赤穂市文化財保護連絡員」を委嘱している。連絡員は、歴史文化遺産の巡視、情報提供をはじめ、石造物の悉皆調査・報告書刊行などを行っているほか、地域における歴史文化遺産活用の中心的存在となっている。



施設整備

基本構想で設定した地域、もしくはストーリーごとに特定の既施設を改修し、情報の小拠点的な役割を持たせる。すでに整備されている拠点的な施設と、この小拠点とをつなぎ合わせることで、来訪者が面的に散策でき、ストーリー性をもって訪れることができるようにする。



地域等の自主的な取組への支援

地域や団体が、歴史文化遺産を地域の宝として自主的に行う取組事例が増えている。こうした事業に対し、専門的な見地から保護措置等のアドバイスや、広範かつ詳細な情報提供といった支援を行う。また、こうした活動から漏れてしまった歴史文化遺産の保護活用を図るなど、下支えも行う。

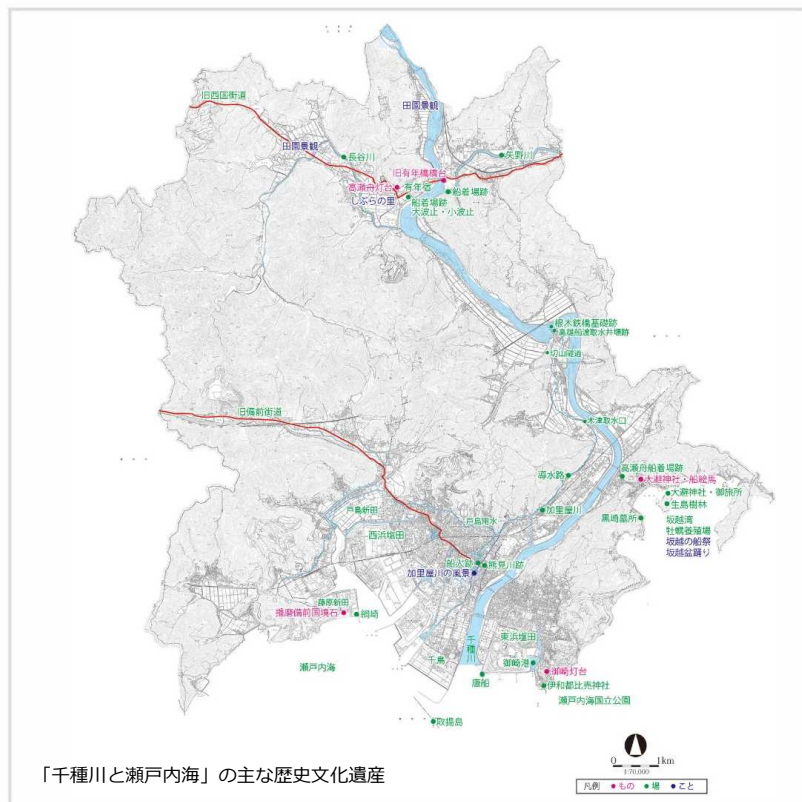


他関連分野との連携

歴史文化遺産は、単なる歴史文化資源ではなく、まちづくりや観光・産業分野、景観分野などさまざまなまちづくりの関連分野を「つなぐ」ものである。こうした共通認識のもと、歴史文化遺産を活かしたまちづくりについて、他関連分野と連携を図っていく。



関連文化財群



「赤穂市を代表する歴史文化」として設定。赤穂市は、川や海に育まれた特色あるまちなみがつくられ、塩づくりの国として栄えた。また豊かな自然景観を背景に、さまざまな性格をもつ遺跡や、獅子舞、船祭など、特色ある祭礼が際立つ。さらに忠臣蔵という全国的に著名な歴史文化も欠かすことのできない特徴である。

ストーリー

- ① 千種川と瀬戸内海
- ② まちなみと風景
- ③ 塩の国
- ④ 赤穂事件と忠臣蔵文化
- ⑤ まつりといのり
- ⑥ 海の遺跡、山の遺跡

策定後の成果（見込まれる効果）

① **地域学習の基礎資料として**
赤穂市歴史文化基本構想には、赤穂市の歴史文化に関する基礎データが地区ごとにまとめて掲載されており、地域住民や子どもたちが自らの地域を学ぶ際の基礎資料となる。また、これに触発され、新たな歴史文化遺産の発見につながることも期待される。



② **まちづくりの基礎資料として**
今後の観光やまちづくりは、歴史文化遺産を介して行われることが多く、地区ごとにまとめられた歴史文化遺産のデータは、その基礎資料となる。また策定報告書では、赤穂市を代表する歴史文化をビジュアルに訴えて紹介しており、Web公開によって市の魅力を発信することも目的の一つとした。



③ **防災の基礎資料として**
本構想では、1,148件の歴史文化遺産の解説及び位置図が付されており、行政だけでなく、地域住民が自らの地域の歴史文化遺産を意識して防災に取り組む資料にもなる。また万一被災した際には、その復旧リストとしての性格も持たせることができる。

